

わけぎ

農薬取締法上、「ねぎ」、「わけぎ」、「あさつき」はそれぞれ別の作物である。

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型・病害虫名													
普	通									▲	■		
										▲	■		
										▲	■		
ベ	と												
黒	斑												
さ	び												
ネ	ギ												
シ	ロ												
ネ	ギ												

べと病

留意事項

- 1 アミスター20フロアブルは、薬害のおそれがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。また、QoI剤<1 1>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 苗床の発病株を除去する。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) <M 5> 【1000倍 14日／2回】
 - ・ [ランマンフロアブル](#) <2 1> 【2000倍 3日／3回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) << 1 1 >> 【2000倍 7日／4回】
 - ・ [アリエッティ水和剤](#) <P 7> 【800倍 3日／3回】

黒斑病

留意事項

- 1 アミスター20フロアブルは、薬害のおそれがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。また、QoI剤<1 1>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) <M5> 【1000倍 14日／2回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) <11> 【2000倍 7日／4回】
 - ・ [オンリーワンフロアブル](#) <3> 【1000倍 14日／3回】
 - ・ [ロブラール水和剤](#) <2> 【1000～1500倍 14日／3回】

さび病

留意事項

- 1 春期と秋期の2回、比較的低温で雨の多い時に発生が多い。
- 2 菌は土壤中で越冬する。
- 3 アミスター20フロアブルは、薬害のおそれがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。また、QoI剤<11>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) <M5> 【1000倍 14日／2回】
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) <<11>> 【2000倍 7日／4回】
 - ・ [オンリーワンフロアブル](#) <3> 【1000倍 14日／3回】

ネギアザミウマ

留意事項

- 1 高温少雨の条件で多発する。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダントツ粒剤](#) <4A> 【3～6kg／10a 株元散布 3日／4回】
 - ・ [アクタラ粒剤5](#) <4A> 【6kg／10a 作条混和 植付時／1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5> 【アザミウマ類 2500～5000倍 3日／3回】
 - ・ [リーフガード顆粒水和剤](#) 劇 <14> 【1500倍 7日／2回】
 - ・ [アドマイヤーフロアブル](#) 劇 <4A> 【アザミウマ類 2000～4000倍 3日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [エルサン乳剤](#) 劇 < 1 B > 【アザミウマ類 1000倍 14日／4回】

シロイチモジヨトウ

留意事項

- 1 発生初期の防除を徹底する。
- 2 葉の内部へ潜り込む前に防除を行う。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) < 5 > 【5000倍 3日／3回】
 - ・ [アタブロン乳剤](#) < 1 5 > 【2000倍 21日／3回】
 - ・ [マトリックフロアブル](#) < 1 8 > 【1000～2000倍 7日／3回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) < 6 > 【1000～2000倍 7日／3回】

ネギハモグリバエ

防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [アクタラ粒剤5](#) < 4 A > 【6kg／10a 作条混和 植付時／1回】
 - ・ [ベストガード粒剤](#) < 4 A > 【6kg／10a 植溝処理土壌混和 定植時／1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) < 4 A > 【2000～4000倍 3日／4回】
 - ・ [アグロスリン乳剤](#) 劇 < 3 A > 【2000倍 3日／2回】
 - ・ [リーフガード顆粒水和剤](#) 劇 < 1 4 > 【1500倍 7日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。